

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

土地改良区の活動の大切さをもっと広めたい

～印旛沼土地改良区水土里整備課 高橋 修氏～

千葉県佐倉市

印旛沼土地改良区は、印旛沼周辺に広がる約6,400haの農地における農業生産を支えるため農地や用・排水機場・用排水路等の施設を整備・管理するとともに、地域を洪水から守る排水管理を行っている土地改良区である。

今回紹介する高橋修さんは、土地改良区に就職されて以来、事業担当、施設管理業務、事務局長を経て、現在は多面的機能支払い推進を担当している。日頃から土地改良区の活動に関する、行政、地域住民の理解を深めるために広報活動に力を入れており、PRイベントの開催や地域環境に関するシンポジウムへの参加等、積極的に活動している。その活動は非常にアグレッシブで、以前、土地改良事業の重要性を県知事に理解してもらうため、知事が出席する会議があれば可能な限り出席し、時には会場に到着した知事車のドアを開けて迎え、会議では直接土地改良事業の大切さについて訴えたこともあったそうだ。



印旛沼土地改良区
高橋修さん

こうした様々な活動を通じて、行政、地域住民、各種NPO、大学等幅広い人脈・情報網を持っており、必要な情報・人材を集め、取組のアイデアを具現化し、情報発信する、印旛沼土地改良区のプロデューサーのような方である。

1. 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除活動

印旛沼土地改良区の管内では平成22年度から全国初の「流域水質保全機能増進型」事業である国営印旛沼二期農業水利事業が実施されており、地域環境保全に力を入れた地区である。

印旛沼土地改良区では、環境保全の取組として、特定外来植物ナガエツルノゲイトウの駆除に取り組んでる。ナガエツルノゲイトウは、水路、河川、湿地等に生える水草で、農地に侵入してトラクター等に絡まるなど農業面での影響に加えて、排

水機場のスクリーンの目詰まりやポンプの吸水障害による故障を引き起こし、防災面でも問題となっている。

駆除活動は印旛沼改良区の呼びかけにより、H20年から改良区、農家や地域住民の参加により開始され、H23年からは活動の輪が広がり、千葉県、関東農政局等の行政、土地改良区、大学などの関係団体や地域住民との協働活動で取り組まれている。

現在は、駆除したナガエツルノゲイトウを堆肥化する研究も行っており、試作品ができたので、試験的に施肥を行う予定である。高橋さんは「堆肥化が成功すれば、今後堆肥のミニプラントを造り、新たな資源循環に繋げていく。」と今後の展開を語ってくれた。

2. 日々感じる活動の手応え

若い頃、上司から「風景を見ればその地域の農業が分かる」と聞いたことから、現在でも移動中は景色を眺め、「混住化が進んだ地区は水管理が難しそうだ」と思いを巡らす等、普段から農業に目を向けるよう心掛けている。印旛沼周辺でも都市化・混住化が進んでおり、印旛沼土地改良区は農業面だけでなく、洪水時の排水管理等、地域の治水を担っている。大雨や洪水時に改良区がしっかりとした排水管理を行



大学生に事業実施地区を説明

わなければ、周辺地域へ浸水し被害が出る。それだけの重責を担っているのにもかかわらず、最初に浸水するのが農地であるせいか、地域住民、都市サイドの行政にそのことについて理解を得ることがとても難しいと感じていると高橋さんは話す。

しかし、ある会議の際に、会場から「印旛沼土地改良区の活動は、地域の環境や安全な生活を守っているのにも関わらず、その活動に必要な費用を農家だけに賦課していていいのだろうか？」と問題提起する意見が出たことがあった。この意見を聞いた時ほど、これまでの活動の成果を感じたことはなかったそう。

3. 今後の取組

今後の取組を尋ねると、「土地改良区の活動の重要性に関する、地域住民、行政の理解を深めるための活動をしているが、まだまだ力及ばず、十分に浸透していないと感じているので広報活動にもっと力を入れたい。今後は生物多様性、資源循環をコンセプトにしながら県政・市政、都市土木サイドへのアプローチも含め、より活動の幅を広げたい。」と熱く語ってくれた。

【関東農政局農村振興部設計課】